

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社ほのぼの月寒		
事業所名	グループホームほのぼの音羽 1F		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成28年3月18日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600079-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣に保育園があり、年に数回(クリスマス・運動会・敬老の日等)行事の中で交流することや、普段も近くの公園で話したり、遊んだりする機会があります。又、地域との関わりとして、町内会の方々が常に暖かく見守って頂き、盆踊りや親子レクの参加、運営推進会議等で交流させていただきいております。利用者さんの希望を取り入れた外出も実施しています。職員としては、会社で今年度より誕生日休暇ができました。提供する食材は、基本北海道産であり、地域の特産物(白老肉ハンバーグ等)もよく提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほのぼの音羽」は、バス停から徒歩数分の閑静な住宅地に立地している。近隣には公園や保育園などもあり地域交流に適した環境になっている。建物内は広々とした造りで、大きな窓に面した居間や食堂は利用者がゆっくり落ち着いて過ごせるように家具の配置なども工夫している。職員は理念をしっかりと理解し、一人ひとりの利用者が安心して暮らせるように明るい笑顔で真心のこもった支援を行っている。代表者は、各職員の向上心を活かしながら積極的に外部研修に参加する機会を設けており、今年度も救急救命講師普及員の資格を取得している職員を中心に事業所内で救急救命講習を実施している。代表者をはじめ、今年度着任した計画作成担当者も新任の管理者と共に更なる職員の資質向上と事業所の発展を目指して前向きに取り組む意向を持っている。隣接している保育園との交流も継続しており、敬老会に子供達が来訪して歌などを披露したり、保育園のクリスマス会には利用者がサンタクロースとして訪問してプレゼントを渡している。看取りにも積極的に取り組み、職員として看護師を配置して主治医の指示の下に可能な限りの医療処置などを行いながら今年度も1名の看取りを行っている。職員は笑顔で利用者に話しかけながら、日々温かな支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔とおもいやり」を理念に掲げ、実践していく中で地域に密着したグループホームを目指すことを含めている。	地域との繋がりを大切に地域に密着したグループホームを目指していきたいという法人共通の運営理念を掲げている。今後は職員と共に、法人理念に沿った事業所独自のケア理念の作成も検討したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度、運営推進会議を実施し、町内会の方々と交流を図るとともに、理解を深めてもらっている。	地域の盆踊りに出かけて利用者も一緒に踊ったり、見学しながら地域住民と交流している。地域のお祭りで子供神輿が事業所を訪れたり、保育園との交流も継続して行っている。事業所行事に、手品のボランティアが来訪することもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績なし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方の情報を聞き、互いに協力できる関係を築き、サービス向上に活かしている。	今年度は、諸事情により3月の会議で3回の開催にとどまっている。事業所からの報告や、市役所職員から食中毒や感染症などの情報を貰っている。会議案内と議事録は全家族に送付しているが、家族の参加は得られていない。	次年度は、年6回の開催を期待したい。また、テーマを記載した会議案内を送付し、参加できない家族の意見を事前に聴き取りながら会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の入退院の報告、認定調査申請、面談等、何かあったら、連絡をしている。	生活保護受給者が多いため、保護課の担当者と日頃から情報交換しながら対応などを相談している。計画作成担当者は、おむつサービスの申請や介護計画の提出などで市役所を訪問している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院や家族等へ拘束しない方針であることを説明している。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した身体拘束廃止マニュアルを整備している。具体的な事例に沿って拘束しない適切な対応について職員間で検討している。ベッドからの転落を防ぐため、布団に変更している。行動を制止するような言葉がけがあれば、その都度職員間で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加はあるものの、内部研修にて27年度は実績はなし。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にてプリント配布し、研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者様の面談を行い、ご家族への意向を聞き、サービス内容、金額等、口頭で説明し、理解納得をしていただいた上で、同意を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書は、入居の際、契約時に説明している。職員へ要望が伝わった場合、改善点を職員会議で話し合い、書類作成し、職員へ周知している。	家族の来訪時や介護計画作成時に、意見や要望を聴き取るようにしている。家族の意見などは苦情報告書に記載しているが、些細な意見や要望も個別に記載しながら、更に家族の思いを把握していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、代表者との面談あり。また、職員会議にて、意見や提案を聞く機会を作っている。	毎月のユニット会議で会社からの報告やカンファレンス、課題などについて話し合っており、職員間で活発な意見交換が行われている。職員の提案を受けて業務の流れなどを変更することもある。職員は得意分野を活かしながら係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度にて適正に評価および、モチベーションアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	来年度より、社内全体で合同研修と交換現場研修を実施予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や研修会等へ参加し、他社との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族に生活状況を聞き、入居してからは本人が安心して生活を送れるように周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることを聞き、入居してからは本人が安心して生活を送れるように周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必よな支援を把握し、ケアプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の若いころの話を聞いたり、レクレーションをしたりと生活を送り、「ご苦労さま」等の声をかけてもらい、励まされている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向、協力も得ながら、利用者様が過ごせるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られる利用者様もいる。	宗教関係の知人が来訪したり、友人が訪ねて来る利用者もいる。職員と一諸に受診の帰りに好きな場所に立ち寄ったり、馴染みの公園に散歩に出かけている。外出行事として、利用者の好きなラーメンをみんなで食べるに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでゲームや体操等を行っている。また、職員が間に入り、コミュニケーションのお手伝いをしている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お互いに変化に対して情報交換している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で過ごしたい方には無理強いせず、時々、声がけをし、コミュニケーションをとっている。	会話から把握することが難しい時は、仕草や表情から読み取るように工夫している。利用者の現状が把握できるように、趣味や嗜好などの変化も随時記録に残していきたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に記録に目を通し、変化に気をつけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情からその日の心身状態を把握し、その方に合った対応を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が意思表示ができないときには、毎日の暮らしをよく理解し、もっと向上しながら、日々、穏やかなご生活が出来るように、介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に、家族の意向を確認しながら職員間で意見交換して3ヵ月毎に介護計画を作成している。個々のサービス内容に沿ってケアチェックシートを毎日記入しているが、詳細な記録は行われていない。	介護計画の見直しに活かせるように、ケアチェックシートに各利用者の変化や課題などを更に詳しく記入するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の書き漏れがないように常に記入し、また、それを他の職員も見落としがないように気を付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に体操方法など、病院等に相談して実施したり、個別に趣味への発見や提供などに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設側で必要と思われる際には関わりを持つことがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に利用者様の体調に気を配り、気になることがあれば受診している。	家族が受診支援する時は、健康状態を口頭で伝えている。協力医の受診は事業所で支援しており、重度化した場合は往診で対応している。受診記録は個別に綴じているが、受診経過が分かるような書類の整備も検討している。	

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との日々の健康観察の情報を密にし、訪問看護師と共になんでも相談できるようにしている。また、勉強会のノートを作り、最新のデータや資料などで学習し、個々の適正な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医やご家族と相談しながら行っている。入院中はできるだけ様子を見に行くようにしている。情報、交換や相談等は努めるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階から悪化した場合の説明や改善等、病院やご家族と一緒に相談をしている。状況に応じて説明、訪問看護で補える環境づくりへの相談をしている。	利用開始時に指針に沿って事業所の方針を説明している。職員として看護師を配置して、主治医の指示の下に可能な医療行為を行いながら希望に応じて看取りも行っている。今年度も1名の看取りを行い、職員間で振り返りの研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	掲示板や資料での周知や救命講習等に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的避難訓練を行い、対応力を付けている。	消防署の立ち会いの下に、昼間の火災を想定した避難訓練を行っている。地震想定自主訓練も初めて実施している。今後は夜間想定避難訓練を実施し、寒さ対策の備品も整備したいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭におき、人格を尊重し、プライバシーを損ねるような対応はしないように努めている。	男性の利用者は苗字に、女性は名前に「さん」づけで呼んでいる。職員の言葉がけで気になる場合は、管理者やリーダーがその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知度、理解力を把握した上で、その人その人にあった説明を日々心がけ、自己決定できるように、ゆっくり働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活のペースに合わせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で行きつけの理容店のある方は、ご家族の都合に合わせて外出したり、また、知人やご家族に訪していただき、本人の好みでカットしていただいている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、食器吹きとスタッフ共に行い、一人ひとりの好みや嫌いな物とメニューを変更することもある。	寿司職人が来訪して、利用者に握り寿司を提供するイベントがある。全員でラーメン屋に出かけたり、弁当を作って花見やドライブに出かけている。誕生日には希望を聞いてちらし寿司や鍋料理を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量表を使用して把握しやすいようにし、声かけや提供を一人ひとりのタイミングで行うように支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前、起床後に実施している。一人で出来ない方については、声かけやお手伝いをしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排せつ表を使用した上で、時間の間隔により、声かけ、誘導を行って支援し、失敗の軽減に努めている。	就寝中におむつを使用している利用者も日中は布パンツやパッド、リハビリパンツで過ごしている。入院時におむつを使用していた利用者も、トイレに座って腹圧をかけて自然排泄を促すことでリハビリパンツに改善した事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方は、特に確認をし、水分や運動を勧め、それでも困難な方には処方されている薬にて対応している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日は面会が多いため、月～土にて入浴。時間や順番は、利用者様の体調や気分に合わせて、ご入浴いただいている。	日曜以外の午後の時間帯に3人程度が入浴し、1人平均週2回の入浴で清潔維持している。楽しく入浴できるように湯上りに清涼飲料水を提供したり、職員と会話をしながらシャワーチェアや手すりを使い、安全に湯船に浸かれるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、お部屋にてお休みになられている方おり、それぞれの生活のリズムを崩さないように配慮している。また、昼夜逆転傾向の方には、声かけ等を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は多種多様なため、看護師や調剤薬局等に聞き理解を深めている。特に処方薬は、注意点を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗たく物をたたんだり、ゴミ捨て等をしていただいた時には感謝の気持ちを伝え、皆で楽しめる遊びを行っている。			

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、出来る限り散歩をしていただいている。また、利用者様の希望により、買い物の支援を行っている。	公園まで散歩に行ったり、隣の保育園のクリスマス会にはプレゼントを持って訪問している。初詣や町内の盆踊りに参加している。個別の受診時に車で遠回りをして懐かしい場所を通ることもある。冬期以外は外出の機会も計画的に作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経済的な理由や体調管理の面で、ご希望に添えない場合もあるため、施設にて管理させていただくことが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望する場合には、ご家族への電話をしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の掲示板等に、季節の飾りをし、居心地の良い空間を創るようにしている。	居間兼食堂と浴室やトイレなどの共用空間は臭気もなく、清潔さと適正な温度や湿度を維持している。カレンダーや時計の他、季節の飾りや手づくり作品、利用者の習字などが飾られており家庭的な雰囲気になっている。乾燥を防ぐためバスタオルを濡らして干すなど、居心地よく暮らせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで区切った空間を作り、利用者様同士で気兼ねなく過ごせる空間を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、使い慣れたものを持ってきていただいている。	防災用カーテンと照明器具が備え付けてあり、利用者は馴染みの品物を持ち込み自由に暮らしている。ベッドでの寝起きが負担になる利用者は布団を使用している。ぬいぐるみや加湿器、テレビなどがありゆったりと落ち着ける部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体動作を把握し、施設内の掃除、洗たく物のたたみ等の作業をその時の状態に合わせて行うことにより、個々の力を発揮できるように自立支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社ほのほの月寒		
事業所名	グループホームほのほの音羽 2F		
所在地	苫小牧市音羽町2丁目10-1		
自己評価作成日	平成28年3月18日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600079-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣に保育園があり、年に数回(クリスマス・運動会・敬老の日等)行事の中で交流することや、普段も近くの公園で話したり、遊んだりする機会があります。又、地域との関わりとして、町内会の方々が常に暖かく見守って頂き、盆踊りや親子レクの参加、運営推進会議等で交流させていただきしております。利用者さんの希望を取り入れた外出も実施しています。職員としては、会社で今年度より誕生日休暇ができました。提供する食材は、基本北海道産であり、地域の特産物(白老肉ハンバーグ等)もよく提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔とおもいやり」を理念に掲げ、実践していく中で地域に密着したグループホームを目指すことを含めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1度、運営推進会議を実施し、町内会の方々と交流を図るとともに、理解を深めてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実績なし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内の方の情報を聞き、互いに協力できる関係を築き、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の入退院の報告、認定調査申請、面談等、何かあったら、連絡をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院や家族等へ拘束しない方針であることを説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加はあるものの、内部研修にて27年度は実績はなし。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議にてプリント配布し、研修をしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者様の面談を行い、ご家族への意向を聞き、サービス内容、金額等、口頭で説明し、理解納得をしていただいた上で、同意を交わしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書は、入居の際、契約時に説明している。職員へ要望が伝わった場合、改善点を職員会議で話し合い、書類作成し、職員へ周知している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、代表者との面談あり。また、職員会議にて、意見や提案を聞く機会を作っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度にて適正に評価および、モチベーションアップに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	来年度より、社内全体で合同研修と交換現場研修を実施予定。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会や研修会等へ参加し、他社との交流を図っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族に生活状況を聞き、入居してからは本人が安心して生活を送れるように周知している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っていることを聞き、入居してからは本人が安心して生活を送れるように周知している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必よな支援を把握し、ケアプランに取り入れている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の若いころの話を聞いたり、レクリエーションをしたりと生活を送り、「ご苦労さま」等の声をかけてもらい、励まされている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向、協力も得ながら、利用者様が過ごせるように支援している。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られる利用者様もいる。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでゲームや体操等を行っている。また、職員が間に入り、コミュニケーションのお手伝いをしている。			

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お互いに変化に対して情報交換している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で過ごしたい方には無理強いせず、時々、声がけをし、コミュニケーションをとっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に記録に目を通し、変化に気をつけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情からその日の心身状態を把握し、その方に合った対応を心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が意思表示ができないときには、毎日の暮らしをよく理解し、もっと向上しながら、日々、穏やかなご生活が出来るように、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の書き漏れがないように常に記入し、また、それを他の職員も見落としがないように気を付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に体操方法など、病院等に相談して実施したり、個別に趣味への発見や提供などに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設側で必要と思われる際には関わりを持つことがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に利用者様の体調に気を配り、気になることがあれば受診している。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との日々の健康観察の情報を密にし、訪問看護師と共になんでも相談できるようにしている。また、勉強会のノートを作り、最新のデータや資料などで学習し、個々の適正な受診ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医やご家族と相談しながら行っている。入院中はできるだけ様子を見に行くようにしている。情報、交換や相談等は努めるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階から悪化した場合の説明や改善等、病院やご家族と一緒に相談をしている。状況に応じて説明、訪問看護で補える環境づくりへの相談をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	掲示板や資料での周知や救命講習等に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、対応力を付けている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭におき、人格を尊重し、プライバシーを損ねるような対応はしないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知度、理解力を把握した上で、その人その人にあつた説明を日々心がけ、自己決定できるように、ゆっくり働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活のペースに合わせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で行きつけの理容店のある方は、ご家族の都合に合わせて外出したり、また、知人やご家族に來訪していただき、本人の好みでカットしていただいている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、食器吹きとスタッフ共に行い、一人ひとりの好みや嫌いな物とメニューを変更することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量表を使用して把握しやすいようにし、声かけや提供を一人ひとりのタイミングで行うように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前、起床後に実施している。一人で出来ない方については、声かけやお手伝いをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排せつ表を使用した上で、時間の間隔により、声かけ、誘導を行って支援し、失敗の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりやすい方は、特に確認をし、水分や運動を勧め、それでも困難な方には処方されている薬にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日は面会が多いため、月～土にて入浴。時間や順番は、利用者様の体調や気分に合わせて、ご入浴いただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、お部屋にてお休みになられている方おり、それぞれの生活のリズムを崩さないように配慮している。また、昼夜逆転傾向の方には、声かけ等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用は多種多様なため、看護師や調剤薬局等に聞き理解を深めている。特に処方薬は、注意点を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗たく物をたたんだり、ゴミ捨て等をしていただいた時には感謝の気持ちを伝え、皆で楽しめる遊びを行っている。		

グループホーム ほのぼの音羽

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には、出来る限り散歩をしていただいている。また、利用者様の希望により、買い物の支援を行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	経済的な理由や体調管理の面で、ご希望に添えない場合もあるため、施設にて管理させていただくことが多い。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望する場合には、ご家族への電話をしていただいている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の掲示板等に、季節の飾りをし、居心地の良い空間を創るようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで区切った空間を作り、利用者様同士で気兼ねなく過ごせる空間を整えている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に、使い慣れたものを持ってきていただいている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体動作を把握し、施設内の掃除、洗たく物のたたみ等の作業をその時の状態に合わせて行うことにより、個々の力を発揮できるように自立支援している。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほのぼの音羽

作成日：平成 28年 4月 22日

市町村受理日：平成 28年 4月 27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が2か月おきに行われていない	日程を事前に決め、定期的に関催する	来年度は5月、7月、9月、11月、1月、3月の6回を計画とし、各運営推進会議のテーマや議題を事前に用意をし、ご家族への参加の呼びかけや意見を頂けるように案内を作成し郵送する	1年
2	1	会社の理念はあるが、施設としての理念がない	この施設らしい目標の決定	スタッフ全員から案を出してもらい、会議等で意見をまとめ最終的には施設長とリーダーで新しい施設の運営理念を作る	3ヶ月
3	35	非常災害セットが準備されていない	非常災害セットを用意する	本部にて用意する予定のものを早急に準備し施設に置く	6ヶ月
4	26	サービスに関するチェックシートの記載内容が薄い	ケアチェックシートを記入する際、各利用者の変化や訴え、状態など細かく記入する	入居者のコミュニケーションをとり、表情などを読み取り細かく記入し情報の共有を図る	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。